

# シンガポール日本人学校 小学部クレメンティ校に勤務して

留萌市立東光小学校

教諭 後藤 仁 弘

(H21～H23年度派遣)

## 1. シンガポールについて

### (1) シンガポールの概要

シンガポールは東南アジアのほぼ中心、赤道直下の北緯1度17分、東経103度51分に位置する都市国家である。北のマレー半島（マレーシア）とはジョホール海峡で隔てられているが、コーズウェイと呼ばれる連絡橋で結ばれている。シンガポールは63の島からなり、最も大きな島は東西42km・南北23kmのシンガポール島である。全般に平坦な地形で、最高地点はシンガポール島中央部にあるブキ・ティマ山(163m)である。狭い国土に500万人以上もの人々が生活しているために宅地開発が進み、熱帯雨林の原生林もブキ・ティマ山周辺に僅かに残るのみである。年間を通して高温多湿である。



シンガポールには中華系70%、マレー系15%、インド系10%、その他5%の人々が住む多民族国家である。国語はマレー語であるが、公用語としては英語・中国語・マレー語・タミール語が使われている。中華系の人々が多いため中国語が広く使われているが、共通・公式言語としては英語が用いられ、学校教育も英語で行われている。（英語と民族的母語の2言語教育政策を実施）

シンガポールは以前はマレーシア連邦に帰属していた歴史もあり、地理的・文化的にはマレーシアの影響を強く残している。人口構成に応じるように中国・マレーシア・インドの3つの文化が共存し、互いの伝統や宗教（仏教・イスラム教・ヒンドゥー教）を尊重しつつ、繁栄の道を歩む多民族国家である。

都市国家であるため資源に乏しく、金融・観光が経済の中心である。東南アジアの経済の拠点として多くの外国人が住み、日本人も約3万人が在住している。

シンガポールは東南アジアの中心に位置するため、他国へのゲートウェイ的な役割も担っている。チャンギ空港は東南アジアのハブ空港として高い評価を得ている。また、船舶の往来も非常に盛んである。

### (2) シンガポールの教育制度

シンガポールは教育熱心な国として知られ、高学歴社会になっている。英語を公用語としているため、第一言語は英語であるが、多民族国家として各民族の母国語を受け継ぐためにマレー語、中国語、タミール語などの言語も第二言語として教えている。算数・理科・社会等は英語で学習し、第二言語は選択して学習している。小学校段階では母国語教育はかなり時間数があり、卒業試験では英語・算数・理科に加えて母国語が必須になっている。

児童生徒数の増加に伴い、多くのローカルの小学校は午前と午後の二部制を採用している。（セカンダリースクールはほぼ全日制）二部制の学校では、午前の授業は朝7時頃から始まり、午後1時頃に終了する。午後の部は、午後1時頃から始まって、夕方6時半か7時頃に終了する。（1校時＝30分の9時間授業）午前・午後の学年の振り分けは各学校によって異なり、例えば、1・3・5年が午前ならば、2・4・6年が午後という具合である。ローカルの小学校にはキャンティーン（学食）があり、子どもは好きな時間に食事をする事ができる。お菓子

を持参する子が多く、自由に食べている光景をよく見る。休憩時間にお菓子を食べる子も多く、日本人学校との交流では、日本人学校の子どもが驚くことの一つになっている。日本の公立小学校との大きな違いは、校区がない学校が多いということである。小学校にもランクがあり、優秀な子どもが集まる小学校に入ることは大変難しい。尚、小・中学校には制服がある。

シンガポールの小学校（プライマリースクール）は6年あり、その後セカンダリースクールに4年（一部で5年）、そしてジュニアカレッジに2年又はプレユニバーシティかポリテクニクに3年と進む。主に、ジュニアカレッジから大学へと進学することになる。小学校卒業試験（PSLE）の結果によってセカンダリースクールでのコース分けが決まってしまう。スペシャルコース又はエクスプレスコースなら4年間、ノーマルアカデミックコース又はノーマルテクニカルコースなら5年かけてセカンダリーを修了する。大学は、国立の総合大学であるシンガポール大学（NUS）のほか、南洋工科大学（NTU）などの4校しかない。大学進学率は10～15%の狭き門である。

## 2. シンガポール日本人学校について

### (1) シンガポール日本人学校の概要

シンガポール日本人学校は、シンガポール日本人会の学校運営理事会が運営している私立学校である。小学部（クレメンティ校、チャンギ校）と中学部（ウェストコースト校）の3キャンパスがあり、それぞれに校長・教頭を配している。本部である事務局はクレメンティ校に置かれている。クレメンティ校・チャンギ校とも約650名、中学部450名の児童生徒が在籍する規模の大きな在外教育施設である。

小学部には学区があり、居住地区によってクレメンティ校かチャンギ校かが決められている。（チャンギ校には特別支援学級が設置されている）各校とも、スクールバスで通学している児童生徒が多い。小学部・中学部ともに給食はなく、弁当と水筒を毎日持参している。家庭で弁当が用意できない場合には、指定業者が販売している弁当を購入することになる。クリーナーが常時清掃しているため「掃除時間」の設定がない。（但し、日本に帰国しても対応できるように、週1回10分程度の清掃時間を設けている）

教員は、文部科学省派遣教員、専任教員（財団及び現地採用教員）の日本人教員だけではなく、現地採用の英語教員が多数在籍している。また、オフィス（事務局）、メンテナンス、ガーデナー、クリーナー、セキュリティのスタッフが数多く勤務している。

### (2) シンガポール日本人学校の特色ある教育

文部科学省が認定した在外教育施設であるため、学習指導要領に準拠した教育活動が行われている。また、シンガポールにあるため全学年で週3～4時間程度英会話教育が実施されている。さらに、小学部では音楽と水泳学習、中学部では体育と技術家庭においてイマージョン教育が取り入れられている。

イマージョン（Immersion）には「<sup>ひた</sup>浸す」という意味がある。イマージョン教育とは、子どもたちを英語に浸し、英語運用能力の向上を測ろうという願いが込められている。イマージョン教育の重要な目的は、母語の能力や教科学習と両立して英語の力を身に付けることにある。イマージョンの授業は学級担任が行うのではなく、専門知識を持った英会話教員が英語で指導している。

水泳学習は年間を通して各学年30時間程度実施している。小学部における音楽のイマージョン教育は、日本の伝統音楽や日本の歌を指導する必要から、すべての授業時数をイマージョンで行うのではなく、日本人教員による授業と時数を分け合いながら実施している。

### 3. シンガポール日本人学校小学部クレメンティ校について

#### (1) クレメンティ校の概要

私が勤務した小学部クレメンティは、シンガポールの西部の丘陵地帯にあり、向かいにはシンガポール国立大学がある。イスラム教のモスクや緑豊かなクレメンティウッズ（公園）に隣接している。周辺にはコンドミニウムやHDB（日本でいう分譲公団住宅）が多数ある。

クレメンティ校は、小学1年から6年まで約650名の児童が在籍している。各学年4学級程度あり、1学級30人前後の学級編成になっている。年間を通じて約150名程度の編入・退学があり、3年程度在籍する児童が多い。保護者の学校教育活動に対する理解が深く、PTA活動が大変積極的である。

シンガポール日本人学校は、校長・教頭・教務・学級担任・専科の教員の他に、校務という担当がある。校務は、施設設備及び備品等の整備と管理、事務局やメンテナンスとの連絡、教科書の管理、教材の発注、指定体育着や弁当業者との連絡と調整、登下校のスクールバスの運行管理等の仕事を受け持っている。私も赴任2年目に校務を担当したが、その時は上記の仕事に加え、児童の在籍管理、教職経験の浅い教員への指導、校内研究等も担当した。

クレメンティ校には、文部科学省派遣教員以外にも多くの日本人教員が勤務している。財団（海外子女教育振興財団）からの教員とシンガポール日本人学校が独自に採用した教員である。（総称して専任教員）専任教員は比較的教職経験が浅く、年齢も若いため、教育技術力の向上をめざす研修が必要になってくる。日本国内であれば研修の機会は多くあるが、在外教育施設では限られた環境の中で研修を行わなくてはならないため、校務分掌に明確に位置付け、学校全体としての教育力の向上に努めている。

#### 【クレメンティ校における新任指導の内容】

- ①週案の提出…授業計画づくり（授業参観計画の作成）
- ②定期的な研修…新任研修便りの発行、教科指導、授業づくり指導
- ③授業研の実施…一人一実践（新任指導授業研修と校内研修）
- ④学級経営のサポート…学級経営・生徒指導について相談、サポート
- ⑤授業交流…他の先生の授業を参観（週1回を目安に幅広く参観）
- ⑥学級通信・通知表所見…通信の添削、所見の書き方指導
- ⑦学習参観・懇談会のサポート…授業づくり（本時案）、懇談会の進め方について指導・助言
- ⑧教室環境整備…学級掲示の仕方とアドバイス
- ⑨その他…校長、教頭からの講話、学期末反省会



	項 目	具 体 的 内 容
一 学 期	新任研修の進め方（説明）	今年度の新任研修の内容と計画について…新任指導担当
	教員としての心構え（講話）	日本人学校の教員として…校長
	学級経営について（指導・研修）	学級経営の在り方と教室環境整備、学級通信について…教頭
	学習参観に向けて（指導）	授業づくり、本時案作成、保護者対応について…新任指導担当
	教科指導（研修・指導）	授業見学及び参観による研修及び指導…新任指導担当
	通知表作成に向けて（指導）	評価の方法、所見の書き方について…新任指導担当
	◆新任指導通信配付（紙上研修）	「授業づくり」「子ども理解」「学級経営」「教科指導」「道徳教育」
二 学 期	生徒指導について（研修）	生徒指導の実際と方法、本講の現状について…生徒指導担当
	新任研授業①	算数科授業研修・実践交流会
	新任研授業②	国語科授業研修・実践交流会
	新任研授業③	保健体育科授業研修・実践交流会
	新任研授業④	理科授業研修・実践交流会
	◆新任指導通信配付（紙上研修）	「外国語活動」「学習評価」「特別活動」「生徒指導」「特別支援」

三期	新任研授業⑤	算数科授業研修・実践交流会
	新任研授業⑥	音楽科授業研修・実践交流会
	実技講習会	ICT 教育と電子黒板の効果的な活用方について…情報担当教諭
	指導要録の整備について（説明・研修）	評価・評定の仕方と記入方法について…新任指導担当
	新任研修のまとめ（講話） ◆新任指導通信配付（紙上研修）	これからの教員として（今年度の成果と課題）…校長 「教材研究」「教材の開発」「評価」「教科指導」「生徒指導」 …新任指導担当

## (2) クレメンティ校の教育活動

シンガポール日本人学校は学習指導要領に添った教育課程に、英会話教育を取り入れた教育活動を実践している。

### 【英会話】

1年 ……週2時間の英会話  
＋週1時間のフォニックス

2～4年…週3時間の英会話

5～6年…週3時間の英会話  
＋週1時間の英文法

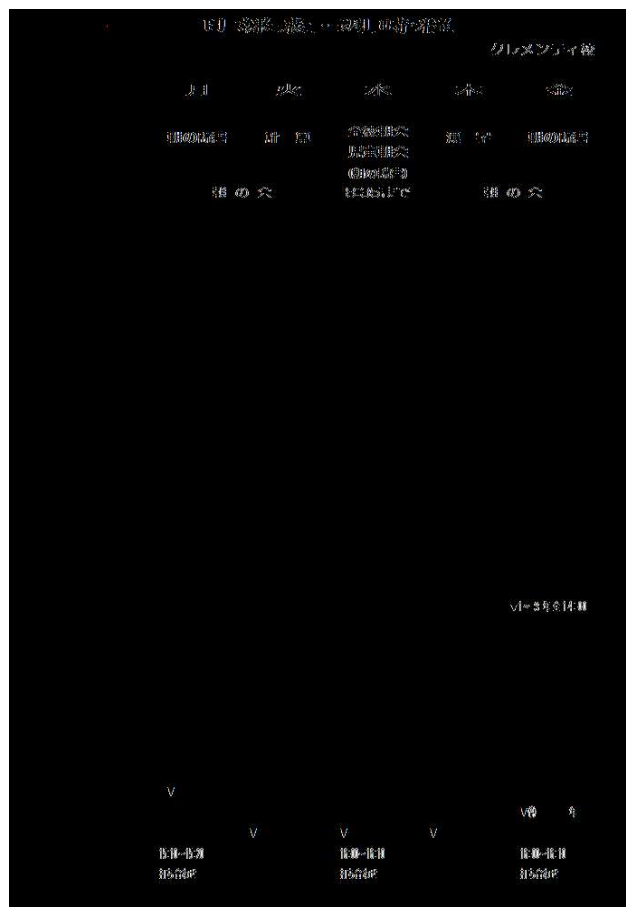
※英会話は、学年を英語能力別に13のクラスに分けた少人数学級で実施。

### 【イマージョン水泳】

1～6年…週1時間（年間30時間）  
学級単位で実施

### 【イマージョン音楽】

1～2年…年間40時間  
学級を半数に分けて実施  
3～4年…年間30時間  
学級単位で実施  
5～6年…年間10時間程度  
学級単位で実施



## ① 英会話学習の内容

英語能力別のクラス編成で、1クラス8～10人程度の少人数で実施。現地採用の英語教師が授業を担当。テキストは英語圏で使用されているものを各自で購入する。

英会話の学習以外にもハリラヤ・ハジ、ディーパ・ヴァリ、ハロウィーン、クリスマス、チャイニーズ・ニューイヤー（旧正月）に関連した英語での集会活動も実施している。平成23年度からは従来の英会話学習に加え、学級担任と連携を図りながら

外国語活動（FLT）にも積極的に取り組んでいる。（外国語活動は、学級単位で1～4年は年間10時間程度、5～6年は年間35時間実施）



## ②イマージョン水泳の内容

常夏のシンガポールであるため、年間を通して水泳授業が実施可能である。9月は運動会があるため実施していないが、各学級年間30時間程度実施している。現地のスイミング・スタッフ2～3名が指導に当たっている。授業回数が多いため、日本の子どもたちよりもはるかに泳力がある。（学級担任はプールサイドで監視）毎年2月に学年で水泳記録会を開催している。



音楽専科教員（日本人）や教務との連携が欠かせない。

## ③イマージョン音楽の内容

チャング校と同様の指導計画を立てて実施している。1～2年は1学級を単純に半分に分けた2クラスで実施。（他の音楽は学級担任が学級一斉に指導）、3～6年は1学級単位での一斉指導（他の音楽は音楽専科教員が指導）

マレーの音楽だけではなく、クリスマス等の行事に関係した音楽も積極的に取り入れている。また、クレメンティ校では11月に音楽会（クレッチコンサート）を開催していることから、音



## ④その他

各学年とも国際交流として、現地校との学校交流を実施している。相手校に出掛けたり、相手校の子どもたちを受け入れたりして交流を深めている。英語での交流となることから、英語教師の力を借りて準備作業を進めている。さらに5～6年では、現地の家庭に泊まるホームステイや、隣接するシンガポール国立大学でのインタビュー活動など、様々な活動が行われている。

2年生は近くの商店街での買い物体験、3年生は現地の日系企業の工場見学、4年生はチャイナタウン（中国文化）・リトルインディア（インド文化）・イスタナカンボン（マレー文化）、5年生はキャンプ、6年生はボルネオ島（マレーシア）への修学旅行もある。

在外教育施設という特殊な環境から、内外各地からの“お客さま”の来校が多い。さらに、入学希望者の下見、現地校の教員の視察等、日々多くの来校者があり、教育内容の説明をしたり、校内を案内したりするのも教員が行っている。



## 4. シンガポールでの生活について

### (1) 生活全般について

シンガポールには日系のデパート、スーパーマーケット、レストラン、書店、電気店、衣料品店、医療機関等が多数あり、日本と全く同じ生活が可能である。さらに、欧米の有名店が入った大型のショッピングセンターが幾つもある。インターネット環境も整備されており、ケーブルテレビではNHKワールドプレミアムが視聴できる。



在シンガポール日本人で組織されているシンガポール日本人会では、各種の講座や夏祭りなどのイベント、各種のスポーツ大会を開催し、会員の親睦を深めるだけではなく、現地との交流を深める役割を果たしている。（日本人学校の教員は、日本人会の行事に選手及び役員として積極的に参加している）

年間を通じて高温多湿（最低気温25℃、最高気温32℃程度）ではあるが、11月下旬～2月下旬頃は雨期と呼ばれ、気温が若干下がり過ごしやすい。（最も暑いのは6月）

シンガポールは治安がよい国の一つである。夜に出歩いても危険を感じることはないが、外国人を狙った犯罪が発生していることもあるので、“ここは日本ではない”ということを常に意識しておく必要がある。

### (2) シンガポールで生活する上での注意点

シンガポールは第二次世界大戦で日本軍に占領された歴史がある。各地に戦跡があるし、現地校の社会科の教科書には、日本軍の行為が詳細に記されている。

しかし、現在のシンガポールは最も親日的な国の一つである。その理由は、リー・クアン・ユー初代首相の“Look East 政策”により国が発展してきたことに起因している。戦後の日本の復興に学び、それをシンガポールに取り入れることで経済的な発展を遂げてきたのである。シンガポールで生活していると、過去の悲惨な出来事を忘れてしまいがちであるが、日本人としてしっかりと理解しておくことが大切である。

シンガポール日本人会には史跡資料部という組織があり、戦前戦中の記録を整理し、各種資料を出版している。さらに、シンガポール日本人墓地を管理し、日本人学校の子どもたちも清掃奉仕活動に参加している。

この日本人墓地には数多くの“からゆきさん”の墓だけではなく、日本軍人の墓や慰霊塔もある。また、“マレーの虎”（ハリマオ）と呼ばれた谷豊の碑もあって興味深い。



## 5. おわりに

在外教育施設であることから、教員だけではなく、子どもや保護者も日本各地から来ている。様々な生活習慣や考えがある中で、保護者の期待に応える上質な教育を実践するには、教員同士の交流や研修が重要であり、多くの出来事に柔軟に対応できる力が必要になってくる。また、様々な人とのコミュニケーションを積極的に取り、自ら進んで人々の中に入っていくことがシンガポールでの生活を豊かで有意義なものにしていくと感じた。